

# 松田次博氏 | NTTデータ プリンシパルITスペシャリスト 次の主役は「コンバインド」だ

企業ネットワークは、今後どの方向に進んでいくのか。これまで数々の旋風を巻き起こしてきた業界の風雲児、NTTデータの松田次博氏は今、「コンバインド・コミュニケーション」を掲げている。

歯に衣を着せぬ松田さんの言動は、企業ユーザーからの支持を集める一方、時に大手ベンダーの強い反発を招いてきました。その松田さんがNGNをどう見ているのか、非常に興味があります。

松田 企業ユーザーにとって、当面のNGNは「Now Generation Network」に過ぎません(図表1)。NGNの特徴は、IP化による固定電話網、携帯網、データ網の設備統合、インターネットにないセキュリティ、QoSの保証、アプリケーション、サービスの開発容易化ですが、これらはすでに多くの大企業が実現していることです。交換機をこれからIP化するキャリアにとっては「Next」かもしれませんが、企業ユーザーにとっては「Now」でしかありません。

あるネットワーク専門誌ではNGNとは一言でいうと「加入電話網のIP化」だと定義していました。

その電話はますます使われなくな

っています。

松田 NTT東西の事務用の通信時間は、2001年度には約9億6000万時間ありました。しかし、04年度には約4億8000万時間に激減しています(図表2)。ビジネスでの固定電話の通話は3年間で半減したのです。

固定電話だけではありません。携帯電話の1契約当たりの通話時間は、2000年度は1日3分57秒でした。それが徐々に減り、04年度は3分16秒。1日、3分程度しか電話をかけていないのです。それでは何に使われているかというと、インターネットアクセスです。昨秋行われたある調査によれば1日に1~3時間、インターネットに接続している人が31%もいるそうです。その用途は情報検索と音楽・ゲームのダウンロードが50%を超えており、メールは2割程度です。つまり、携帯電話は電話機でも、メール機でもなく、ネットを使うためのPC代わりになったのです。なので、私は文章では



**松田次博**(まつだ・つぐひろ)氏  
NTTデータ法人ビジネス事業本部ネットワーク企画ビジネスユニット長。東京ガスのIP電話など、数々の有名プロジェクトを手がける。情報通信に携わる人の交流と勉強を目的とする情報化研究会を1984年から主宰。eメール：matsudats@nttdata.co.jp

「ケータイ」と表記しています。

このように音声通信が激減しているのは、メールによる情報交換やWebによる情報共有によるワークスタイルの変革が進んだからです。つまり、オフィスの生産性は電話を使わないことで向上したのです。にもかかわらず、いまだに「IP電話でワークスタイルを変革しましょう」というベンダーの提案は的外れです。

## APIの開放がNextの条件

NGNが「Next」になる条件は何ですか。

松田 先ほど言ったように、当面のNGNで実現できることは、企業単独でも可能です。企業ユーザーが

「Nextだな」と思うのは、自分たちだけでは不可能なことができるようになったときでしょう。そして、それはキャリアネットワークが持つ機能や情報をAPIで企業に開放することだと考えています。

例えば、米国のスプリント・ネクステルは、携帯電話の位置情報をWebサービスで提供しており、運送会社はリアルタイムなトラックの位置情報を活用して効率的な配送システムを構築できます。

従来、キャリアはインフラからサービスまでを一体提供する垂直統合型を基本にしてきました。しかし、ネットワーク機能を公開すればするほど、水平分業型に近づいていきます。SaaS( Software as a Service )などで新たな収益を創造していきたいキャリアにすれば、どこまで公開したらいいか、悩むところです。

松田 4月に京都で行った情報化研究会で、その点を英BTのヨン・キム副社長に聞きました。「BTはセールスフォース・ドットコムのようなSaaSをやりますか」と質問したのです。キムさんは即座にこう答えました。「SaaSベンダーはBTにとって顧客です。我々は顧客と競合するサービスはやりません。BTのネットワーク機能を使ってもらえば、それでいいのです」と。私は大変共感しました。水平分業モデルでは、キャリア、SaaSベンダー、Sier、そして企業ユーザーが共存共栄できます。

私が今、最も関心があるのは、「NGNとインターネットの関係がどうなっていくか」ですが、インターネットも共存共栄できるはず。インタ

ーネットの特徴は、オープンで柔軟性が高くコストが安い反面、セキュリティやQoSが弱いことです。一方、NGNはクローズドですが、セキュリティやQoSが保証されます。つまり、補完関係にあるのです。

最近、米国のWeb2.0な人たちと話す機会が多いのですが、新しい技術やサービスを生み出す彼らのスピード感とエネルギーは本当に素晴らしいです。私もスピードは相当ある方ですが、負けそうになります。

NGNでインターネット接続はベストエフォートですが、彼らのパワーとスピードが生きるよう、その価格や利用可能な帯域幅、信頼性などは今のBフレッツよりはるかにいいものになって欲しいと思います。

## 今後はリアルタイムコラボレーション

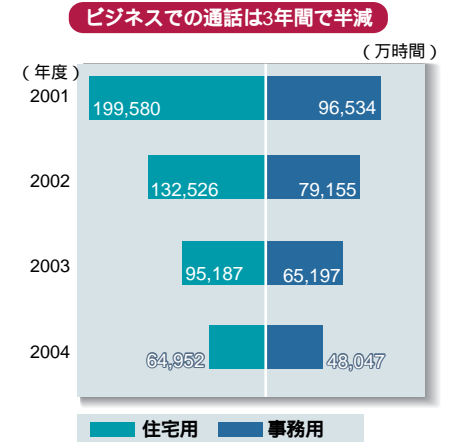
企業のコミュニケーション環境は今後、どう変遷していくと思いますか。

松田 それを描いたのが図表3です。企業ユーザーに限りませんが、これからのコミュニケーションはPCとケータイが主役になります。

インターネットの商用化以前は、極端な話、電話とFAXしかありませんでした。特に、圧倒的な通信手段だったのは、リアルタイムツールである電話です。しかし現在は、タイムシフトツールであるメールが主役を担っています。タイムシフトツールの良さは、相手の都合に合わせる必要がなく、お互いに時間を有効に使える点です。

加えて今、急激に広まっているのがWeb会議です。メールで困るのは相談事に向かないことです。ところ

図表2 事務用・住宅用の別で見た通信時間



NTT東西「電気通信役務通信量等状況報告」により作成  
出典：総務省「情報通信白書平成18年度版」

が、安価にテレビ会議を実現できるWeb会議なら、相手の表情や同じファイルなどを見ながら、コミュニケーションできます。リアルタイムのコラボレーションが可能になるのです。

IM(インスタントメッセージ)も外資系の企業などで積極的に使うところが増えていきます。IMには通信したい相手がオンラインか否かを示すプレゼンス機能があり、これが重宝がられています。オンラインなら、すぐメッセージを送って会話が始められます。複数のメンバーで会議をすることもできます。日本ではプレゼンスはIP電話用語ですが、アメリカではIM用語なのです。

電話はとなるとどう思いますか。

松田 デスクトップでは据置型の電話機が使われなくなるでしょう。PCにIP電話のソフトを載せたソフトフォンがお勧めです。実際、私のオフィスでは8割がソフトフォンです。高価なIP電話機が不要、PCのLANがそのまま使えるため新たなLAN配線が不要、ハンドセットはUSBでPCに

図表1 松田氏の考える「NGNとは？」

